

平成27年度新規研究開発領域 検討の経緯



科学技術振興機構

RISTEX 

社会技術研究開発センター
Research Institute of Science and Technology for Society

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）

平成27年度予算額 : 1,731百万円
(平成26年度予算額 : 1,812百万円)

目的

自然科学に加え人文・社会科学の知見を活用し、広く社会の関与者の参画を得た研究開発により社会の具体的問題を解決する。安全な日本を実現している要素を科学的根拠に基づいて分析し、社会システムに実装し得るものとするための実践型研究開発を新たに開始するほか、研究開発成果の社会実装等を一層推進する。

社会技術とは

自然科学と人文・社会科学の複数の領域の知見を統合して新たな社会システムを構築していくための技術であり、社会を直接の対象とし、社会において現存あるいは将来起きることが予想される問題の解決を目指す技術。

推進方法

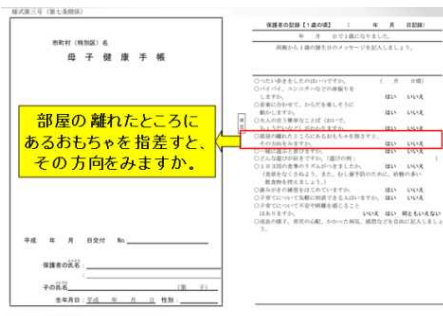
国の方針等を踏まえ研究開発領域を設定し、公募により、採択プロジェクトを決定。領域総括の強力なマネジメントのもと、研究開発を推進。社会の問題解決に取り組む多様な関与者との協働、人的ネットワークの構築を行い、問題解決のための基盤を構築。

成果

◆津波災害総合シナリオ・シミュレータを活用した津波防災啓発活動が実を結び、釜石市では東日本大震災当日登校していた約3,000名の市内小中学生全員が無事に避難することができた。



釜石市立鶴住居小学校
の津波防災学習



母子健康手帳への実装

◆発達障害の子どもの早期診断に係る研究成果に基づき作成した乳幼児自閉症チェックリストの1項目（共同注意行動に関わる項目）が、母子健康手帳の改定に際して取り入れられた。

社会技術研究開発センター（RISTEX）

社会技術研究開発主監会議

センター長

運営評価委員会

企画運営室

領域探索、ネットワーク形成等（問題解決のための連携・協働の基盤の構築）

…社会の具体的な問題が現出するコミュニティや現場における経験的かつ実践的な知見を重視し、センターのシンクタンク機能とファンディング機能を一体的かつ機動的に運用し、社会技術研究開発を効果的に推進。

【研究開発領域・プログラム】

研究開発領域・プログラム

〔新規領域〕

公／私空間・関係性の変容に応える安全な暮らしの創生(仮称) (H27～H32)

〔既存領域〕

持続可能な多世代共創社会のデザイン (H26～H31)

…地域資源を活用しつつ、多世代多様な市民の活躍により、持続可能な都市地域を共創コミュニティがつなぐ安全・安心な都市・地域の創造 (H24～H29)

…複合的災害に対し、強くしなやかで持続可能な社会を構築する実践型の取組を実施

科学技術イノベーション政策のための科学 (H23～)

…客観的根拠に基づく政策形成に資する政策オプションの立案及びそのための分析手法等の開発

問題解決型サービス科学 (H22～H28)

…分野融合型のアプローチで、社会のニーズに沿った問題解決のための技術・方法論等を開発

コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン (H22～H27)

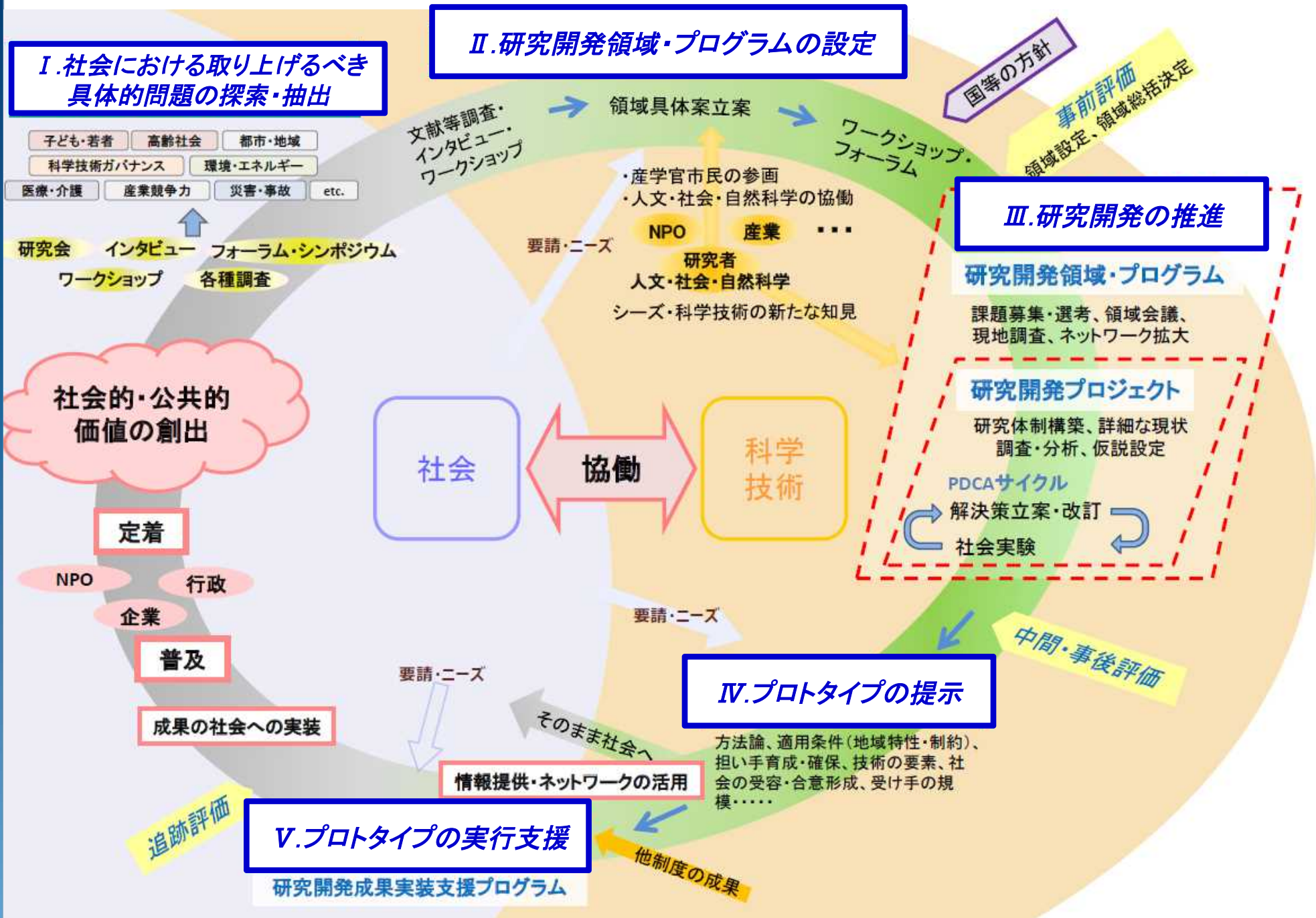
…高齢社会の問題解決を現場を持つコミュニティレベルでの実践的な研究開発により目指す

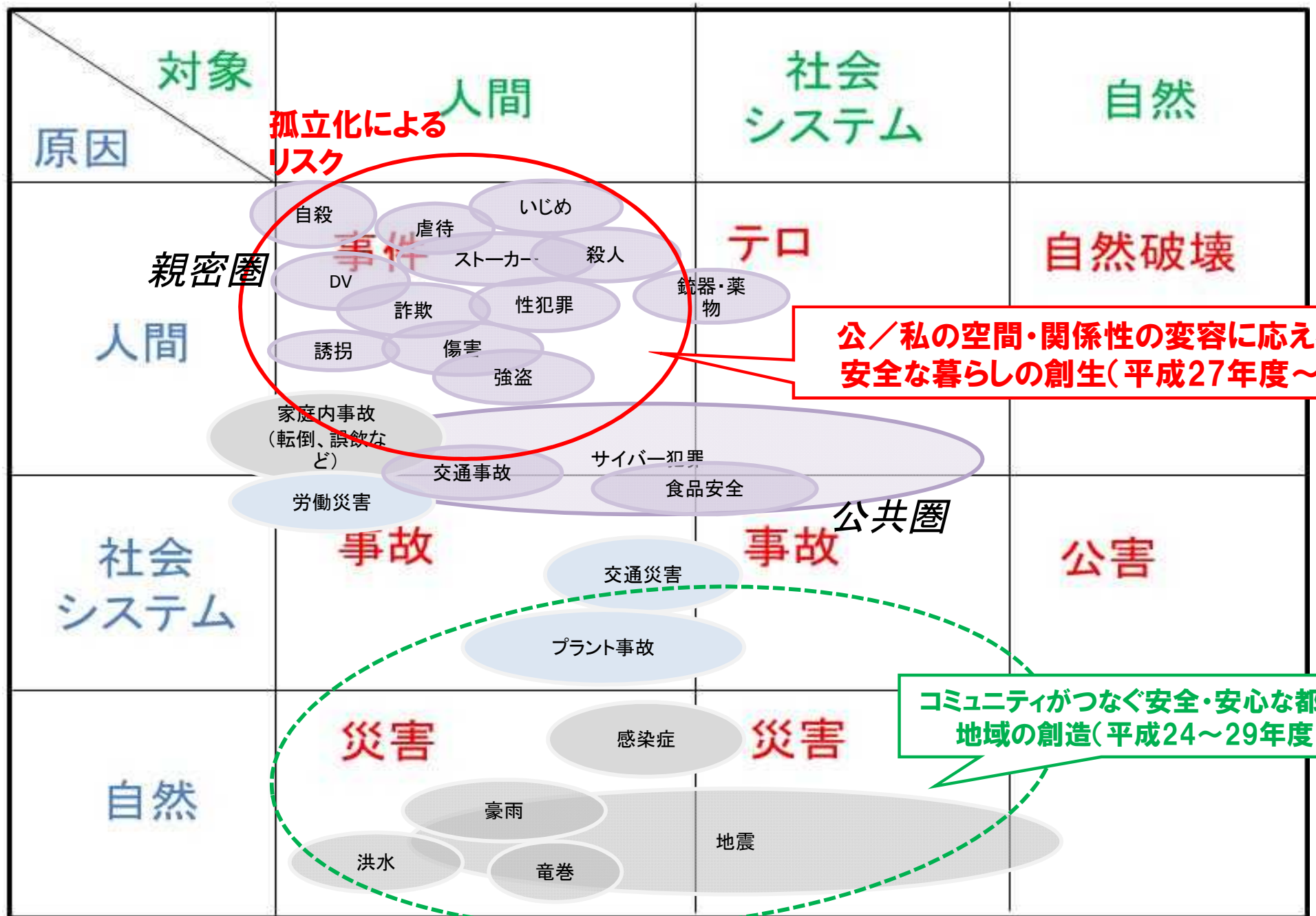
研究開発成果実装支援（公募型H19～ 成果統合型H25～）

…研究開発成果を社会において適用・利用（実装）する取組を支援

「フューチャー・アース」構想の推進 (H26～)

…研究者と自治体、企業、市民団体等が協働して地球環境問題に取り組み、持続可能な社会の構築に貢献することを目指す国際的な枠組みである「フューチャー・アース」構想への対応を推進。





公/私的空間・関係性の変容に応える
安全な暮らしの創生(平成27年度~)

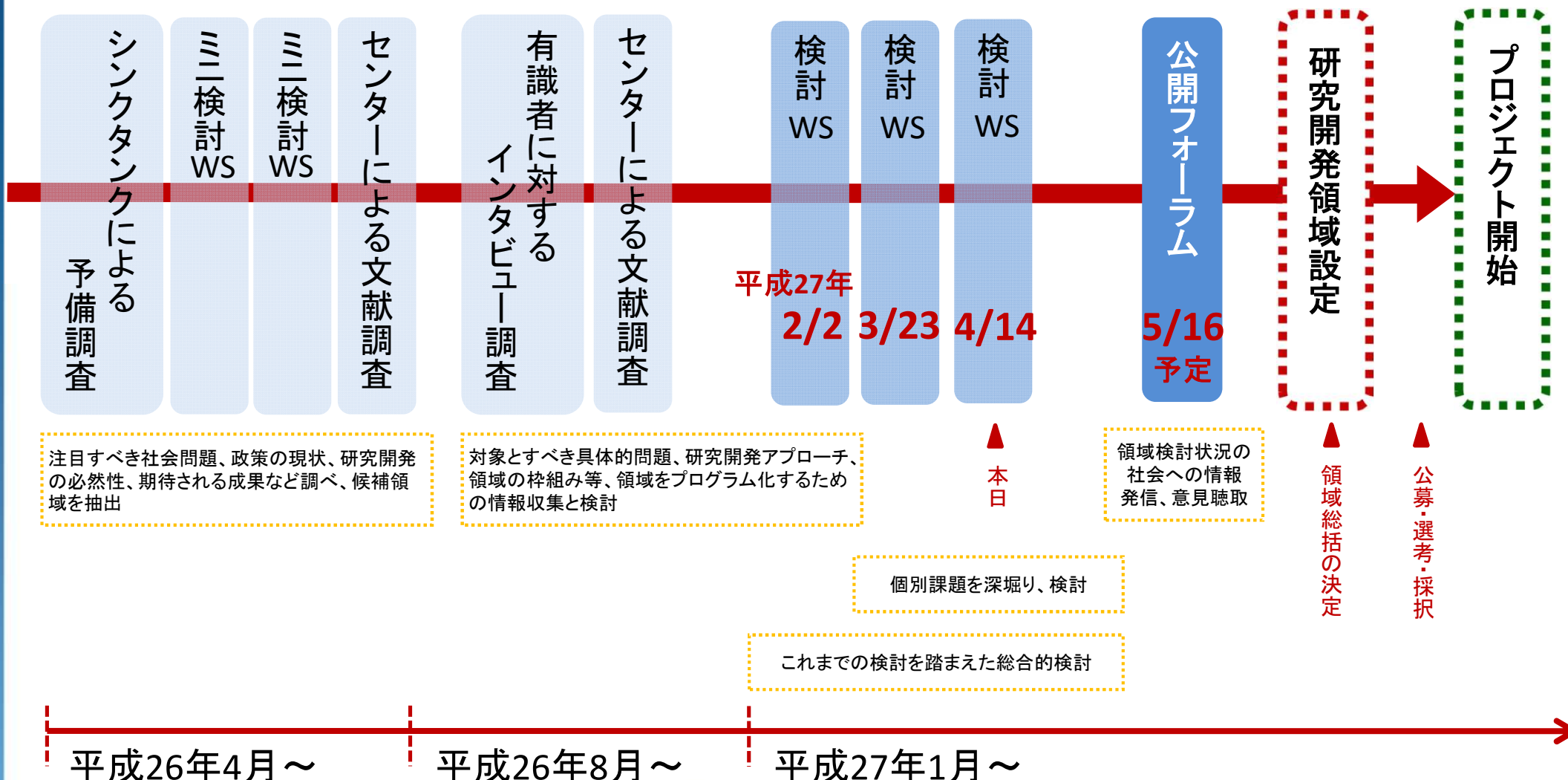
コミュニティがつなく安全・安心な都市・
地域の創造(平成24~29年度)

平成27年度新規研究開発領域 検討経緯

領域企画の第1段階：
候補領域の抽出

領域企画の第2段階：
候補領域の掘り下げ

領域企画の第3段階：
候補領域の具体化



注目すべき社会問題、政策の現状、研究開発の必然性、期待される成果など調べ、候補領域を抽出

対象とすべき具体的問題、研究開発アプローチ、領域の枠組み等、領域をプログラム化するための情報収集と検討

個別課題を深掘り、検討

これまでの検討を踏まえた総合的検討

領域検討状況の社会への情報発信、意見聴取

▲ 領域総括の決定

▲ 公募・選考・採択